都中社研会報

東京都中学校
社会科教育研究会

発行者　佐藤　敏数
編集部長　関屋　裕之
編集副部長　村田　雅也
編集担当　藤原　厳
編集担当　薬師　澄
編集担当　下澤　真平

出来る方法を考えよう

東京都中学校社会科教育研究会　会長　佐藤　敏数
（羽村市立羽村第三中学校長）

昨年度に引き続き、今年度も会長の任に就かせていただきます、羽村市立羽村第三中学校長の佐藤敏数です。昨年度は新型コロナウイルスの影響がある中、会員の皆様をはじめ、多くの本会関係者の皆様の御理解・御協力により、都中社研の運営を進めることが出来ましたことに感謝申し上げます。また、私自身はもとより力はありませんが、今年度も会員の皆様の御支援・御協力をいただき、本会の発展と研究の充実、生徒の学力向上に努めていきたいと考えていますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

さて、五月に開催を予定していました、「令和三年度東京都中学校社会科教育研究会総会」も、昨年度同様に新型コロナウイルス感染防止や社会の状況から中止とさせていただきました。このような状況は本会のみならず、他の研究会においても同様の状況かと思います。

このような状況下においても、本会の目的である、「中学校社会科教育の充実・振興を図る」こと、そのために、「社会科教育に関する調査研究」「研究会、協議会、講演会、見学・巡検等の実施」「会報・研究物等の発行」「関係諸官庁・他の研究団体との連携」を止めることは出来ません。

そこで、今年度も会の運営テーマには「持続可能な都中社研の構築」を掲げさせていただきます。そして、運営の重点として6項目をあげさせてさせていただきます。

(1) オール東京での東京大会を目指した全会員の意識向上
(2) 東京大会及び大会後を見据えた人材の発掘と育成
(3) 新学習指導要領を踏まえた研究及び授業実践の充実
(4) 都中社研の活動の啓発と情報発信
(5) 都小社研との連携・協力
(6) アフターコロナを見据えた会の在り方と運営

この中でも(1)(2)については、十一月に、「グローバル化する社会を生き抜くこれから生徒を育てる社会科学習―よりよい社会を実現するための資質・能力の育成―」を大会テーマに掲げて開催する「第54回全国中学校社会科研究大会東京大会」を通して推進していきたい項目であると考えます。本都中社研は「持続可能な」組織づくり、「アフターコロナの」組織づくりを意識して運営していかなければなりません。

先に述べた東京大会も開催に向けて検討に検討を重ねてなんとか開催することが出来ました。この検討を進める中で東京大会の実行委員長である私自身の頭の中にあったのは、「出来ない理由を言うのは簡単だ。なんとでも理由は付けられる。だから口にするな。出来る方法を考えろ。」という以前仕えた上司からの言葉でした。

都中社研の研究の推進も、組織の活性化も、「何々があって難しいから」「今まで経験したことがないから」といった「出来ない理由」を言うのは簡単です。そうではなく、未来に向けた都中社研の構築を目指し「出来る方法」を考えていきたいと思います。

しかし、この組織づくりは当然のことながら会員の皆様の御理解と御協力なく進めることはできません。今年度も都中社研の活動について、どうぞよろしくお願いいたします。

ICTを活用した学習について

江東区立深川第三中学校　薬師　真澄

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、東京都ではオンライン学習に向けた環境の整備が急がれました。生徒へのICT端末の貸与が進んだ一方、その活用には地域差があるようです。

本稿では、昨年度と今年度に臨時休業を経験した江東区での活用事例を取り上げます。本区で生徒に貸与しているChromebookの活用について、区中研社会科部で共有した内容を紹介します。

①授業の配信について

主に二つの方法が取り入れられています。一つ目はオンデマンド型の配信です。教員と生徒間で双方向のやりとりが出来る一方、大規模校は校内のネットワーク環境が学年全体への配信に耐えられず、学年への一斉配信が出来ないという事例もありました。

二つ目は、録画した動画の配信です。生徒が自分のタイミングで繰り返し再生出来る一方、教員からの一方向な授業になりがちという声もありました。

こうした利点・欠点をふまえ、本区では板書、スライド、デジタル教科書を活用しながらオンデマンド配信をしたり、区内の資料館の様子を録画して配信したりといった活用例が見られました。

②課題の配信・点検について

主に二つの方法が取り入れられていました。一つ目はclassroomを使った課題配信です。資料やWEBサイトのURLを添付したり、学習の振り返りをまとめさせたりといった活用が見られました。なお、提出された課題を点数付けし、返却することもできます。

二つ目はformを活用した課題配信です。複数の設問を設けた課題やアンケートの配信を行いたい場合の活用が想定されます。小テストをformで行うなどの実践も見られました。

③生徒同士の協働学習について

Google上の「ドキュメント」「スライド」「スプレッドシート」などは共同で編集することが出来ます。この機能を使い、本区ではオンライン上で資料を共同編集させる学校もありました。公民的分野の問に対し、スプレッドシートに自分の考えを書き込むことで、意見の共有を図る学校もありました。

このようなオンライン学習の実践を引き続き先生方から学び、生徒の学習活動や授業実践に活かしていきたいと思います。

全国大会に参加して

東久留米市立下里中学校　下　澤　洋　平

令和三年十一月十一日・十二日、第五十四回全国中学校社会科研究大会・第三十九回関東ブロック中学校社会科研究大会・第七十四回東京都中学校社会科研究大会が開催された。

基調提案では主題である「グローバル化する社会を生き抜くこれからの生徒を育てる社会科学習―よりよい社会を実現するための資質・能力の育成―」についてどのような研究と実践が行われたか、またその成果と課題が発表された。

今回の研究はこれからの生徒が関わる社会を、グローバル化する社会とし、そこに主体的に参画・対応でき、しかも少しでもより良い社会を実現させるために必要な資質・能力とは何かを追求し続け、様々に協議・検討した結果、従来重視されてきたものとは違う「未来を見据え、さらに一歩進めた何らかの力」として「予測力」「対応力」「共生力」「発信力」の「四つの力」にたどり着き、その「四つの力」の育成が「国家の形成者」として必要な「公民としての資質・能力」につながっていくという仮説が想定された。

実際の実践では「身に付けさせたい四つの力」と現行学習指導要領が示してる「資質・能力の三つの柱」を「4×3」のマトリクスとして「力」「目標」「評価」の観点から作成した。また、新しい学習指導要領に基づく、「単元指導計画」に関して「四つの力」との関連でどのように位置付ければ適切かなど様々な検討が行われた。そして「公民的分野　2内容　D(2)」の取り扱いに関して、「要」「頂点」と位置付け、三つの分野の学習成果がそこに収斂されていくように生徒が考察・構想する場面を設定し、生徒の考察・構想する力を鍛えていく必要が提案された。

私は、歴史的分野分科会の提案授業から研究協議まで参加した。分野別提案では、基調提案で出された四つの力や単元指導計画の策定を踏まえて、多面的・多角的に歴史事象を考察し、その結果を「自分の言葉」で表現する学習の在り方の研究、中でもこれまで継続的に研究を進めてきた「歴史学習における思考力」の育成について「構想」の学習の育成に関して提案された。

提案授業Ⅰの「身近な地域の歴史」の授業では、単元を貫く問いを「地域のより良い発展のために、「文京区の遺産」を将来どのようにするべきだろうか」とし、これまでの江戸時代から昭和時代に渡る学習から自分たちにとって「身近な地域の歴史」に関しての構想を行い、過去から地域の在り方を学び、現在生きている私たちが地域の将来を考察する活動を通して、生徒に持続可能な社会をつくる一員として考察させるような授業展開を行った。

提案授業Ⅱの「近代の日本と世界」では、単元を貫く問いとして「幕府滅亡後、明治政府が行った政策をあなたはどのように評価するか」とし、生徒が行った「過去の構想」と実際の歴史を比較・検証・評価することを通して、歴史から学べることを追求し、ジグソー学習や意見交換を通して現在の社会に生かせることやよりよい社会を創るために必要なことを考えさせる授業であった。

また、研究発表では現行の学習指導要領を基に「見方・考え方」を「根幹」とした「社会の授業の根幹と贅肉～1635年の海外渡航、帰国の禁止をめぐって～」が発表され、文部科学省初等中等教育局視学官、藤野　敦先生による講評が行われた。

今回、初めて全国大会に参加したが、一人の教員として生徒のこれからの社会を乗り切る力を育成のために、指導スキルだけでなく、時代を見渡す視点をもって取り組む必要があることを感じた。また、新型コロナウイルス感染症に伴った会場に実際に行かなくても研究大会の内容を視聴できるオンデマンド配信の実施や感染症対策に配慮した分野別の中継発表のように、これから起こりうる様々な困難に対して、学校教育だけでなく、このような研究発表の場においても、最大限の内容を提供できるように配慮して執り行っていく必要があることも改めて感じた。

令和2年度　活動報告

都中社研事務局長
中　野　英　水
（板橋区立中台中学校副校長）

令和2年度も各部、各会員のご協力により、コロナ禍が深刻化する中、会の運営を継続することができました。厚く御礼申し上げます。残念ながら令和2年度は継続してきた各事業を中止せざるを得ない状況が多くありました。

1　各部の活動

(1) 研究部
研究主題「グローバル化する社会を生き抜くこれからの生徒を育てる社会科学習」
研究部研修会　5回の実施

(2) 編集部
会報　第93号の発行、研究紀要作成

(3) 事務局
都中社研会員名簿の作成と配布、都中社研ホームページの運営及び更新、各種行事の企画と運営、各種発行物の送付など

2　主な事業

(1) 総会　新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
議事については紙面にて提案
・令和元年度事業報告、決算報告、
令和元年度監査報告
・令和2年度役員承認
・令和2年度事業計画、予算案、幹事会及び専門委員会の実施

(2) 社会科地域巡検
新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

(3) 夏季研修会
新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

(4) 全国中学校社会科教育研究大会（高知大会）
新型コロナウイルス感染症拡大のため中止、紀要冊子にて発表

(5) 関東ブロック中学校社会科教育研究会横浜大会
新型コロナウイルス感染症拡大のため延期

(6) 社会科指導技術向上研修会（示範授業）
新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

(7) 三分野合同研究発表
新型コロナウイルス感染症拡大のため中止、紀要冊子にて発表

3　その他
全中社研、関東ブロック中社研、都小社研との連携

令和3年度　都中社研役員

会長	佐藤敏数・羽村　第三
副会長	田口克敏・杉並　和田
〃	浦山裕志・北　田端
〃	鈴木裕行・練馬大泉西
〃	関　基雄・練馬大泉第二
会計監査	高田はつほ・足立第十三
〃	上田　太・八王子宮上
研究部長	田口克敏・杉並　和田
副部長	鈴木拓磨・豊島千登世橋
〃	高田孝雄・足立東綾瀬
研究部員	三枝利多・目黒　東山
〃	千葉一晶・中野　第七
〃	入子彰子・文京　音羽
〃	松井敏孝・武蔵村山第三
〃	中村　豊・江戸川小松川第二
〃	長井利光・中野　明和
〃	種藤　博・中央　銀座
〃	東野茂樹・葛飾　水元
〃	金城和秀・学芸大学附属世田谷
三分野専門委員長	
地理	藤田　淳・港　高松
歴史	松本　賢・武蔵村山第四
公民	藤田琢治・練馬大泉学園
編集部長	関屋裕之・板橋　桜川
副部長	村田雅也・足立　第九
編集部員	藤原　巌・東久留米東
〃	関　眞理子・文京　第六
〃	志村　淳・江戸川東葛西
〃	薬師真澄・江東深川第三
〃	下澤洋平・東久留米下里
事務局長	中野英水・板橋　中台
副局長	種藤　博・中央　銀座
〃	長井利光・中野　明和
事務局員	渡邊智紀・お茶の水附属
〃	中村　豊・江戸川小松川第二
〃	近藤紗耶香・足立千寿桜堤
〃	小坂千明・府中府中第八
〃	丹　暁子・足立第七(特)
相談役	齋藤博志・専修大学
〃	石上和宏・杏林大学
〃	髙岡麻美・玉川大学
〃	竹原　眞・江東第二南砂
〃	髙山知機・世田谷緑丘